

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	福島県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	福島県南会津郡南郷村立南郷中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	10
生徒数	29	34	33	0	96	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身につけた生徒の育成 ~発展的な学習、補足的な学習の充実を通して~
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

次の学年、教科を中心に、全学年・教科・領域の指導を充実させ、主題に迫る。 2年数学(学力差が大きく、習熟度に応じた指導が特に必要である) 2年英語( 同 上 ) 3年数学( 同 上 ) 3年英語( 同 上 )
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ 確かな学力を身につけた生徒の育成 ~習熟度別指導を核として~ 研究の見通し(仮説) 2、3年生の数学と英語において、通年で2コースの習熟度別学級を編成し、生徒一人一人の個性や能力に応じたきめ細かな授業を行えば、生徒に成就感を与え、学習意欲を高めることができるであろう。 研究内容・方法 ・生徒の学力の実態を把握し、研究計画を樹立する。 ・2、3年数学、英語で、通年で習熟度別2コース編成の指導を行う。 ・他教科、選択教科等においても、個に応じた指導の充実を目指す。 ・小・中・高の連携を図り、小中、中高教師によるTT指導を行う。 ・学力、学習意欲等の実態調査を行い、生徒の変容を調べる。 ・1年次の成果と課題を明らかにし、次年度の研究計画作成に生かす。
--------	--

平成	テーマ 確かな学力を身につけた生徒の育成 ~発展的な学習、補足的な学習の充実を通して~ 研究の見通し(仮説) 2、3年の数学、英語における習熟度別指導をさらに充実させるとともに、各教科においても発展的な学習、補足的な学習を適宜取り入れ、学習に対する成就感を与えることができれば、学習意欲が高まり、
----	---

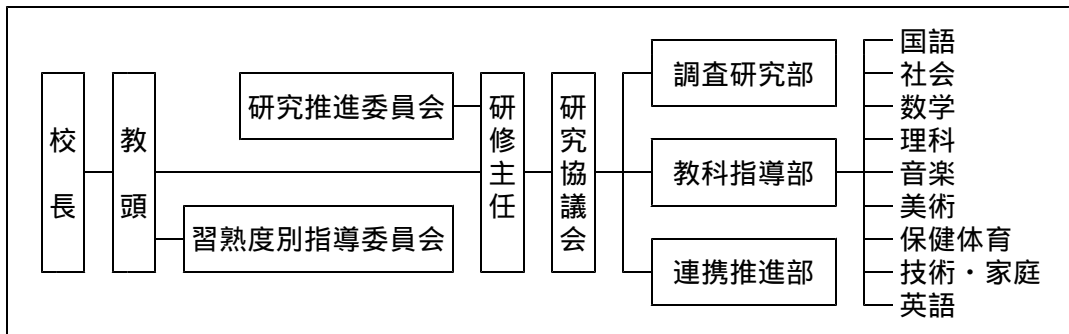
15 年 度	<p>確かな学力が身につくであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年次の成果と課題を踏まえ、2年次の研究計画を作成する。</li> <li>・ 標準学力検査、校内諸テスト、意識調査等を実施し、昨年度の結果と比較し、実践の成果を検証する。</li> <li>・ 各教科の「学力向上プラン」を見直し、具体的な数値目標を設定した実効性のあるものに改善し、学期1回、達成度を評価する。</li> <li>・ 必修教科では、生徒一人一人に応じた指導を一層充実させ、学習内容の確実な定着を目指す。( 数学、英語の通年2コースの習熟度別指導 他教科での個に応じた指導 特別非常勤講師の活用 )</li> <li>・ 選択教科では、補充・発展に重点を置き、生徒一人一人の能力、適性を一層伸ばす。( 数学、英語の習熟度別指導 他教科での個人テーマによる探究・表現活動 必修と選択を関連させた指導 )</li> <li>・ 小、中、高の連携を一層強化し、12年間を見通して、将来の理想とする生徒像を明確にして指導、援助に努める。( 南郷村学力向上推進会議の活性化 小・中、中・高でのTT指導 )</li> <li>・ 秋に中間発表会を行い、実践の成果を県内に広く公開する。</li> <li>・ 2年次の成果と課題を明らかにし、最終年度の研究計画に生かす。</li> </ul>
--------------	--

数学、英語の習熟度別指導を中心に、全教科で学力向上に取り組むため、テーマと仮説を修正し、研究内容・方法を一層具体化した。

平成 16 年 度	<p>テーマ 確かな学力を身につけた生徒の育成 ～発展的な学習、補充的な学習の充実を通して～</p> <p>研究の見通し(仮説) すべての教育活動の中で、生徒の主体的な学びを育成し、それぞれを総合的に結びつけることができれば、将来にわたって生きてはたらく確かな学力を身につけさせることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年間の成果と課題を踏まえ、最終年度の研究計画を作成する。</li> <li>・ 2、3年数学、英語で、習熟度別2コース編成の指導を継続する。</li> <li>・ 他教科、選択教科等との関連を図り、独自の教材開発に取り組む。</li> <li>・ 小・中・高の連携を強化し、村全体で生徒の学力向上に取り組む。</li> <li>・ 秋に研究発表会を行い、実践の成果を全国に広く公開する。</li> <li>・ 学力、学習意欲等の実態調査を行い、成果を客観的に検証する。</li> <li>・ 3年間の成果をまとめ、他校での実践に生かせる資料を作成する。</li> </ul>
--------------------	--

平成16年度の研究計画は、テーマ以外は変更していない。今後これまでの2年間の成果と課題を総括し、今後具体的な研究計画を作成していく予定である。

### (3) 研究推進体制



今年度新たに、習熟度別指導推進委員会を設置した。

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

具体的な数値目標や課外学習との関連まで含めた教科プランに修正できた。そのため、日々の学習指導や成果の検証に十分活用できた。  
意識調査の結果から、9割以上の生徒は習熟度別指導の継続を希望している。また、授業がよくわかり充実していると感じている生徒が多くなった。  
教師自身の学力向上に対する意識が変わり、これまでの1単位時間の工夫から、単元全体の指導構想そのものを工夫するようになった。  
選択の数学と英語では、必修教科の補充・発展を行い、学習内容のより深い理解と意欲の向上が見られた。また、発展学習のための独自の教材を作成した。  
2つの小学校の教員とのTT指導を実施した。また、村内の小学校、高校を含めた授業研究会を計7回(小2回、中3回、高2回)実施し、連携を深めた。

### 2. 今後の課題

通年2コースの習熟度別指導の最大の課題は、中間層の生徒への指導の充実である。実践を通して改善に努め、全生徒が満足できる授業を目指したい。  
教師も生徒も習熟度別指導に慣れ、ややマンネリ化の傾向も見られる。習熟度別指導という形態に満足せず、授業の質的改善に一層努めたい。  
補充的な学習、発展的な学習についての研究と実践がまだ不十分である。校内研修を充実させ、テーマ達成に向けて全職員一丸となって取り組みたい。

### 学力把握のための学校としての取組

定期的な学力調査の実施(標準学力検査の年1回の実施・全学年・5教科)  
校内テストの計画的な実施と結果の累積

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業研究会の実施(6/30 数学、9/8 英語、南会津郡内全小・中・高)  
中間発表会の実施(11/12 実施、国・数・英・理・社・体の授業公開、南会津郡内小・中・高校と福島県内フロンティアスクール)  
研究集録の作成、配布(中間発表会参加者及び県内のフロンティア中学校)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校      ■ 14年度からの継続校
- 【学校規模】              ■ 3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                       10～12学級  
                                  13～15学級                    16学級以上
- 【指導体制】              ■ 少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】              ■ 国語                      ■ 社会                      ■ 数学                      ■ 理科  
                                 ■ 外国語                       音楽                       美術                       技術・家庭  
                                 ■ 保健体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      ■ 有                       無